4．診療報酬はどのようにされていますか（複数回答可）
1．保険診療　2．自由診療　3．無料

5．(1)予約　1．必要　2．不要
(2)紹介状　1．必要　2．不要
(3)手術の施行　1．有　2．無

6．思春期外来（相談窓口）開設時間帯は決まっていますか
1．決めている

時間帯	月	火	水	木	金	土	日	休
午前								
午後								
１８時以降								

2．決めていない

7．「思春期外来（相談窓口）」に関わっている職種すべてに○をつけて下さい
1．医師　2．保健婦（士）　3．助産婦　4．看護婦（士）　5．社会福祉士
6．精神保健福祉士　7．心理相談員　8．思春期保健相談員　9．栄養士
１０．事務職員　１１．その他

8．過去１ヶ月間の受診者のべ数をお教え下さい
のべ　　件　内（子ども　　件、保護者　　件、両方　　件）
内（初診　　件、再診　　件）

9．得意分野をお教え下さい（いくつでも○をつけて下さい）。
1．避妊
2．月経
3．妊娠
4．ＳＴＤ
5．その他の病気
6．性交
7．その他性知識
8．中絶
9．男女交際
１０．性器
１１．自慰
１２．性欲
１３．近親姦
１４．頭痛腹痛
１５．不眠倦怠
１６．気分の変調
１７．食欲食行動
１８．気になる癖や行動
１９．薬物
２０．性格のこと
２１．将来のこと
２２．親子関係
２３．対人関係
２４．不登校
２５．引きこもり
２６．その他

１０．どのようなきっかけで、受診していますか（相談に来ていますか）

１．医療機関からの紹介　２．保健所・保健センターからの紹介　３．広告をみて
４．友達同士の口コミ　５．地域の広報活動　６．学校からの紹介
７．インターネット　８．その他

１１．遠い人の場合、どのくらいの距離から受診（来所）していますか

１．同市区町村　２．同保健所管内　３．同都道府県　４．隣接都道府県
５．遠方の都道府県

１２．他の機関と連携しての取り組みはありますか（いくつでも）

１．医療機関　２．保健所・保健センター　３．学校　４．マスコミ　５．その他

１３．電話相談は実施していますか

１．行っている　（過去１ヶ月間ののべ件数　　）
２．行っていない

１４．電話相談を行っている場合、得意分野をお教え下さい
（いくつでも○をつけて下さい）。

１．避妊
２．月経
３．妊娠
４．ＳＴＤ
５．その他の病気
６．性交
７．その他性知識
８．中絶
９．男女交際
１０．性器
１１．自慰
１２．性欲
１３．近親姦
１４．頭痛腹痛
１５．不眠倦怠
１６．気分の変調
１７．食欲食行動
１８．気になる癖や行動
１９．薬物
２０．性格のこと
２１．将来のこと
２２．親子関係
２３．対人関係
２４．不登校
２５．引きこもり
２６．その他

１５．思春期外来、思春期期相談窓口を営んでいく上でどんな悩みがありますか
（いくつでも○をつけて下さい）。

１．資金　２．施設の理解　３．地域社会の理解　４．他科での不適切な対応
５．きちんと紹介されてこない

（ウラへ続く）

１６．お差し支え無ければご連絡先等をお教え下さい。

所属機関名

回答者または担当者の所属部署、お名前

所属機関の所在地

ＴＥＬ
ＦＡＸ

１７．思春期外来及び思春期保健相談窓口はニードが高いため、こういった医療・サービスを必要とする人たちに情報を提供してゆく必要があります。そのため、さらに情報を提供していただく必要が生じた場合、ご連絡さしあげてもよろしいでしょうか。

可　　不可

お忙しい中、どうも有り難うございました

謹啓　時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

母子保健事業の推進につきましては、平素よりご理解を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、一昨年「健やか親子２１」が策定され、各課題の取り組み目標に対応する現状（ベースライン）を把握するための調査が必要になってきています。

この度、平成１３年度厚生科学研究補助金子ども家庭総合研究事業「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」（主任研究者：国立公衆衛生院公衆衛生行政学部主任研究官　望月友美子　分担研究者：国立公衆衛生院母子保健学部乳幼児保健室長　加藤則子，　日本家族計画協会クリニック所長　北村邦夫）　において、思春期外来（精神保健福祉センターの窓口を含む）の数についての実態調査を行うこととなりました。

つきましては、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

敬具

平成１４年１月３１日

厚生労働省　雇用均等・児童家庭局　母子保健課長
谷　口　　隆

各　都道府県精神保健福祉センター　思春期相談事業担当者　様

お問い合わせ先
厚生科学研究補助金子ども家庭総合研究事業
「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」
主任研究者：　望月友美子　（国立公衆衛生院公衆衛生行政学部）
分担研究者：　加藤則子　　（国立公衆衛生院母子保健学部）
〒　108-8638　東京都港区白金台４－６－１
国立公衆衛生院母子保健学部
FAX　03-3446-6495　　email　kato@iph.go.jp

センター用

思春期相談窓口に関する調査票

返信用封筒をご利用の上、２月２５日（月）までにご投函下さい

ここでは、「思春期相談窓口」とは、次のような活動を行っている施設を指して言います。

主に８～９歳から１７～１８歳頃までの女子及び主に９～１１歳から１８～２０歳頃までの男子に対し、この年齢の発達段階に特有な心身の問題に対応し、この年代の子どもたちに必要社会的・保健医療的な配慮を行いながら、専らこの年齢の男女またはその保護者等について扱う相談活動の場。

１．貴施設で、「思春期相談窓口」のような趣旨の試みあるいは活動等を行っておられますか。

１．行っている　　２．行っていない（設問はこれで終わりです。どうもありがとうございました）

↓次の設問に進んで下さい

２．診療報酬はどのようにされていますか（複数回答可）

１．保険診療　２．自由診療　３．無料

３．(1)予約　１．必要　２．不要

(2)紹介状　１．必要　２．不要

(3)手術の施行　１．有　２．無

４．思春期相談窓口開設時間帯は決まっていますか

１．決めている

時間帯	月	火	水	木	金	土	日	休
午前								
午後								
１８時以降								

２．決めていない

５．「思春期相談窓口」に関わっている職種すべてに○をつけて下さい

１．医師　２．保健婦（士）　３．助産婦　４．看護婦（士）　５．社会福祉士

６．精神保健福祉士　７．心理相談員　８．思春期保健相談員　９．栄養士

１０．事務職員　１１．その他

（ウラへ続く）

6．過去１ヶ月間の受診者のべ数をお教え下さい。

のべ　　件　内（子ども　　件、保護者　　件、両方　　件）

内（初診　　件、再診　　件）

7．得意分野をお教え下さい（いくつでも○をつけて下さい）

１．避妊
２．月経
３．妊娠
４．ＳＴＤ
５．その他の病気
６．性交
７．その他性知識
８．中絶
９．男女交際
１０．性器
１１．自慰
１２．性欲
１３．近親姦
１４．頭痛腹痛
１５．不眠倦怠
１６．気分の変調
１７．食欲食行動
１８．気になる癖や行動
１９．薬物
２０．性格のこと
２１．将来のこと
２２．親子関係
２３．対人関係
２４．不登校
２５．引きこもり
２６．その他

8．どのようなきっかけで、受診していますか（相談に来ていますか）

１．医療機関からの紹介　２．保健所・保健センターからの紹介　３．広告をみて
４．友達同士の口コミ　５．地域の広報活動　６．学校からの紹介
７．インターネット　８．その他

9．遠い人の場合、どのくらいの距離から受診（来所）していますか

１．同市区町村　２．同保健所管内　３．同都道府県　４．隣接都道府県
５．遠方の都道府県

１０．他の機関と連携しての取り組みはありますか（いくつでも）

１．医療機関　２．保健所・保健センター　３．学校　４．マスコミ　５．その他

１１．電話相談は実施していますか

１．行っている　（過去１ヶ月間ののべ件数　　）
２．行っていない

１２．電話相談を行っている場合、得意分野をお教え下さい
（いくつでも○をつけて下さい）。

１．避妊
２．月経
３．妊娠
４．ＳＴＤ
５．その他の病気
６．性交
７．その他性知識
８．中絶
９．男女交際
１０．性器
１１．自慰
１２．性欲
１３．近親姦
１４．頭痛腹痛
１５．不眠倦怠
１６．気分の変調
１７．食欲食行動
１８．気になる癖や行動
１９．薬物
２０．性格のこと
２１．将来のこと
２２．親子関係
２３．対人関係
２４．不登校
２５．引きこもり
２６．その他

１３．思春期相談窓口を営んでいく上でどんな悩みがありますか
（いくつでも○をつけて下さい）。

１．資金　２．施設の理解　３．地域社会の理解　４．他科での不適切な対応
５．きちんと紹介されてこない

１４．お差し支え無ければご連絡先等をお教え下さい。

所属機関名

回答者または担当者の所属部署、お名前

所属機関の所在地

ＴＥＬ
ＦＡＸ

１５．思春期外来及び思春期保健相談窓口はニードが高いため、こういった医療・サービスを必要とする人たちに情報を提供してゆく必要があります。そのため、さらに情報を提供していただく必要が生じた場合、ご連絡さしあげてもよろしいでしょうか。

可　　不可

お忙しい中、どうも有り難うございました

平成13年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」

分担研究報告書

「グループインタビューによる思春期保健対策における問題発見・問題解決の試み —プレ思春期の子どもの飲酒・喫煙に対する意識調査—」

研究協力者　福島富士子　国立公衆衛生院公衆衛生看護学部主任研究官

分担研究者　林謙治　国立公衆衛生院保健人口統計学部長

研究要旨

Ⅰ目的　小学校高学年、思春期前の児童の環境について着目し、子どもたちと、親の両サイドから飲酒喫煙の環境の実態および問題点を抽出し、これを基盤として子どもの飲酒喫煙防止のための具体的なサポートを構築していくことを目的とした。

Ⅱ方法　東京都郊外の小学校在学中の 11 歳から 12 歳の男子 11 名、女子 10 名、およびその母親８グループに対して、FGI（Focus Group Interview）の手法を用いて半構造面接によるデータ収集を行った。実施日時は 2001 年 11 月 12 日から 11 月 15 日であった。

Ⅲ結果及び考察　家庭内における飲酒喫煙で一番に子どもが語るのは父親の喫煙であり、喫煙の多くは子どものそばを避け、自室、家庭外で吸っていた。母の喫煙率は低く、特に祖父母の前では隠れて喫煙するなど、子どもにも他言しないようにいわれている実情が聞かれた。

飲酒の特徴として、正月や祭日など祖父や親戚の人と会食時には、酒量が急激に増加する傾向にあり、普段飲まない母や祖母も飲酒するという傾向にあった。

子どもたちの基本認識として、「酒はいいがたばこは嫌だ。」という意見が主流であった。酒に対するマイナスイメージはほとんどなかった。子どもにとって酒はおいしそうで楽しそうで魅力的な飲み物であり、家庭の中では味見程度と称して少しずつではあるが幼少の頃から飲酒の慣習化が進んでいるケースもあった。未成年でも大学生なら容認する大人社会の状況も語られた。嗜癖性の高さや、飲酒開始が低年齢であるほど酒量が増加傾向にある実体など、その弊害はほとんど認識されていない。

今回の調査で特に注目されたのは、家庭内におけるたばこや酒の管理状況である。社会的には、自動販売機撤廃や子どもへの販売禁止など規制が行われているものの、嗜好する家庭においては、酒もたばこも無造作に子どもの手に届くところに保管されており、ペットボトルの水と一緒に冷やされている酒を誤飲するなどのケースもみられた。清涼飲料水と酷似した味覚や色、パッケージの酒は、子どもの食指を刺激している。家庭内でいつでも手の届くところに煙草、酒類があるという事実が再認識された。

一方、煙草については、子どもたちの間でも、健康への弊害が強く認識されており、特に狭い車の中などで大人の喫煙の影響を間接的に受ける不快感は強く、煙草の吸い殻の臭いへの不快感も語られた。大人もまた、酒と異なり子どもの喫煙に対しては厳しい態度を示しているが、大人が体に悪いものをあえて嗜好する矛盾があるために、子どもへの説得力に欠けていた。

子どもの飲酒・喫煙は大人の社会を反映しており、説得力のある教育を進める上では、大

人自身の教育も欠かせない。特に、今回明らかになった、母の妊娠時の両親に対する教育は一つの世帯に影響を及ぼす機会であり、子どもにとっても理想的な幼児期からの環境整備につながるものと思われ、今後の具体的な支援活動が期待される。

A．研究目的

子どもの飲酒喫煙は年々低年齢化が進んでおり、飲酒については開始時期が早いほど大人になってからの酒量が多くなり、喫煙についても開始時期が早いほどニコチン依存度が高くなり、中学生なら一箱でも依存症になる可能性があるとまでいわれている。この習慣性ゆえに、始まりが早いほどさまざまな将来の健康障害も受けやすくなるとされている。

したがって、これら嗜癖性の高いものについて、早い時期から依存の恐ろしさを教育することが唱えられ始めている。

中学生においての調査は各機関で盛んにおこなわれているが、学童期後半[1]（以下プレ思春期と呼ぶ）の現状を調査したものは少ない。そこで今回は、このプレ思春期の一般的な家庭における飲酒・喫煙状況と、それらが心やからだにどのような影響をおよぼしているか等の実態をフォーカスグループインタビューという質的調査によって明らかにすることを目的とした。

この研究の特徴は、グループインタビューを主催し実施分析したスタッフが、同じプレ思春期の子どもをもつ親によって構成されていることであり、リラックスした状態でありのままの実態を調査収集できることにある。

今後、このグループインタビューによって得られたキーワードからアンケートによる量的調査を行うことを考えており、この結果を統合して子どもの飲酒喫煙防止のための具体的なサポートを構築していくことを目指している。

B．研究方法

1．方法

1）データ収集

本研究では、FGI（Focus Group Interview）の手法を用いてデータ収集を行った。

この手法は、ある特定のトピックスによってグルーピングされた人々に対する、形式ばらないインタビューである。リラックスした状況の中で繰り広げられる会話の一つ一つをカテゴリー化していくことで、質的なデータを積み重ねていく。

インタビューは小学５年生、６年生、11 歳から 12 歳の子ども（男女各２グループ）およびその母親（男子の母親２グループ、女子の母親２グループ）、計８グループに対して実施した。今回、対象者が子どもとその母親であり、子どもの参加については親の承認も必要とすることから、あえて同一の学校及び近隣の面識者を対象とした。

対象を面識者とすることについては賛否があるが、今回は対象者の中心が年少者であり、抽象的な会話には無理があるので、実際の生活で共有している体験を、できるだけリアルに語り合ってもらうためにも面識者を選択した。このような地域に根ざした調査は、ある一定の地域の特性が顕著に現れる可能性もあるが、この中から地域をこえた普遍的な傾向をも推定できるものと考えられる。

2）データ解析方法

この状況から、質的・帰納的研究法の一つである GTA(grounded theory approach)法がもっとも望ましいと考えた。GTA 法とは、フィールドスタディ、いわゆる、面接法と観察によって関連因子を探索するものである。今回はモデレータによるグループインタビューに加え、二人の静的観察者により参加者の仕草・表情などを記録した。

これらの情報をコーディング化し、カテゴリーごとに分類することで、これらを統合するさ

らに高次のカテゴリーを導き出し、それぞれを関連付ける事象を明確に構造化していくことで、児童における飲酒喫煙の低年齢化防止をサポートする体制確立の足がかりとしていきたいと考えた。

今回の研究はこれで完結するものではなく、もともとアンケートという量的な調査を行う事前の研究として、キーワード収集を目的としたものであり、最終的にはこの質的・量的両側面から正確な実態を多角的に把握することをめざしている。

2．研究対象者

東京都郊外の小学校在学中の5年生、6年生である11歳から12歳の男子11名すべて同公立小学校、女子10名。うち9名は同じ小学校のこり1名は幼稚園時代が一緒の現在私立女子小学校在学中。いずれもグループ内で面識あり。およびこの母親21名。

本研究の目的対象の中心となるのは、思春期前の子どもたちであり、親へのインタビューはこの補足として、親から見た子どもの心を語ってもらう形式をとった。

3．データ収集日

2001年11月12日午前・・・男子母親2グループ（男性の司会と2名の記録スタッフ）

2001年11月12日午後・・・男子2グループ（男性の司会と2名の記録スタッフ）

2001年11月15日午前・・・女子母親2グループ（女性の司会と2名の記録スタッフ）

2001年11月15日午後・・・女子2グループ（女性の司会と2名の記録スタッフ）

4．ディスカッションの実態

司会スタッフ共に子どもをもつ一般の保護者である。対象者が安全を感じ、リラックスした状態で話せるように地元でもなじみのある福祉センターの二階の会議室を借り、そこにテーブルを寄せて子どもたちが学校で行っているグループ学習のような雰囲気のスペースでインタビューを行った。和やかな雰囲気を作るために、簡単なお茶とお菓子、子どもにはみかんなどを用意した。

5．グループインタビューの進行と記録

まず、モデレータが自己紹介し、研究目的、進行方法、注意点、守秘義務などについて説明を行い、あらかじめ用意したガイドラインを基に、柔軟性のある対応でインタビューに及んだ。会話は対象者の許可を得た上で、テープレコーダー1台とICレコーダー1台によって記録した。異なる記録機械を同時に用意することで録音のトラブルに備えた。さらに、2名の筆記による記録係が態度やしぐさなどを含め特徴ある部分を記録した。

なお、今回グループインタビューの記録はテープレコーダーとICレコーダーを用意し、テープおこしも、インタビューに参加した観察者が担当して発言を忠実に再現し、司会の観察記録も合わせて、より詳細で正確な状況を考察の段階においても再現できるようにした。

（倫理面への配慮）

対象者の半分が、小学生高学年という年少者であることから、調査には親の承諾と本人の意思確認をあらかじめ行ったうえで、インタビューを実施した。なお、プライバシー確保のため、対象者が面識があることもあり、お互いに話した内容については、議論したり口外したりすることのないように依頼した。

C．研究結果

（注：発言内容の引用は、本人の発言は「」で、子どもの発言を親が紹介するのを引用するなどは『』で区別した）

1．飲酒に対する調査の結果

1）家庭内における飲酒の状況（表2、表4）

子どもの発言から家庭内における飲酒の状

況は、「お父さんは飲む」「お父さんは結構のむ」「お父さんはいつも飲んでいる」「お父さんはのむけどお母さんは飲まない」といった父親の飲酒が目立っていた。また、両親が晩酌などで毎晩飲酒する家庭もみられた。

「かあちゃんとばあちゃんは食べに行ったとき飲む」や、「お母さんはパーティの時しか飲まない」「おじいちゃんが来ると大量に飲む」「親も実家に帰ると飲む」など、子どもの祖父母が同席の場合、酒が振る舞われる場合が多いことなど、子どもたちは家族の飲む場面や飲み方について具体的に語ることが出来ており、日常の生活の中で、子どもたちが意識するしないにかかわらず、大人たちの飲酒について、印象が強く残っていることがうかがえた。

母親の目からみても、家庭内における飲酒状況は対になる子供の発言と共通していた。

2）家族が飲酒することに対する感情（表1）

（1）大人の飲酒に対する疑問

子どもの気持ち

「何でそんなに飲めるのか？」「なんで、あんなにまずいものがよく飲めるな」など大人がなぜお酒を口にするのか分からないといった気持ちがあるが、その背景に子どもが今まで何らかの機会に酒を口にした経験が伺える。

（2）大人の飲酒に対する肯定的感情

子どもの気持ち

「お酒のんでいたほうがいいな」、この理由としては「お土産いっぱい買ってきてくれる」「飲むと、パンとかいっぱい買って来てくれる」など大人の気持ちが大きくなり、機嫌がよくなる結果、得られる心のゆとりを好意的に受け止める傾向にある。

家庭の飲酒の際の子どもの発言頻度（母親から見て）

「『ビールのみな』・・・って(大人に)すすめる」『お酒はたのしいもんだな』など、にぎやかで楽しそうなイメージが全体的にあるようで、「『はやくのみてぇんだよ』『早く二十歳になって飲みたい』など、飲酒が認められるのを心待ちにしているようである」と母親は認識していた.

（3）飲酒に対する拒否的感情

子どもの気持ち

「臭い」「まずそう」「酔っぱらっている人は怖い」「おそってきそう」など、感覚的な不快感と、暴力的なイメージに対する恐怖感が述べられた。

大人が認識している子どもの気持ちや発言（母親から見て）

『(親が) もっと太る』『お酒を飲まない人と結婚したい』という女子の親への批判的な視点がみられる。親側からは、「飲んで主人が娘にべたべたする」「家族で酔いつぶれたのを見て、子どもがお酒に良いイメージを持っていないと思う」などの発言があった。

（4）飲酒に対する興味

子どもの気持ち

「泡がおいしそうにみえちゃう」「泡がおいしそうに見えた」「お母さんが赤ワインとかおいしいって言って居るので飲んでみたい」など視覚的な興味が強く、全体的にこの部分の発言例が少ないのは、実は後述するように、すでに飲酒体験があり、体験に基づく感想が多かったためと考えられた。

3）飲酒体験について（表3）

（1）子どもの飲酒経験の実態

子どもの発言

「ウーロン茶だと思って飲んだことがある、酔っぱらった」「赤ワインとジュースを間違えて飲んだ」「お茶とビールを間違えて飲んだ」「お酒とお茶を間違えた」「ペットボトルによくお水がはいっていて、水だと思ってゴクンと飲んだら酒だった」など、誤飲による体験があげられる。味覚的な不快感は述べられても、これによって気分を害するほどの状況は体験していない。

これに対して、好奇心から親の飲酒の際に、「ビールをすこしだけ」「どういう味か知りたかった」「桃のワインがあって、桃だったらお

いしいかと思って」など、味覚への好奇心でなめる程度の飲酒体験がほとんどすべての子どもに見られた。子どもからの希望があれば味見程度に親が気軽に体験させる傾向にあり、ビールなら泡だけというような状態が継続して習慣化している子も見られた。

（2）飲酒体験の感想

子どもの発言

「苦かった」「まずかった」「一口目は美味しかったけど二度目は苦かった」など、そのほとんどがビールであることを裏付けるように、「泡が美味しかった」「泡が美味しそうに見える」「泡だけ飲んだけれど後まで苦かった」「何回飲んでもまずいんだけど泡は美味しそうにみえちゃう」など苦みに関する具体的な発言と、泡に対する視覚的興味や魅力を表現する子が多く見られた。

このことから、好奇心での飲酒は親の認知の元でビールの味見からはじまるケースが多いことがわかる。これ以外には「甘酒なら美味しいと思って飲んだけどまずかった」や、「桃なら・・・」などのように、ジュースに酷似していたり、甘いイメージのお酒も初期の体験として選ばれることが分かった。

現時点では、苦いなど味覚的な印象は良くないが、「子どものころはまずくても美味しくなると思う」など、将来的には肯定する発言もあり、実体験をもってしても飲酒への印象は全体的に好印象に傾いているようである。この裏付けとしては将来の飲酒についての子どもたちの発言が興味深い。

（3）将来の飲酒について

子どもの気持ち

「大人になったら飲みたい」「日本酒とかは臭いからいやだけど二十歳になったら飲みたい」など、今でなくても大人になったら本格的に飲んでみたいという子どもが多い。一方で、「大人になっても飲みたくなかったんだけど、『会社とかで飲みに行ったりするときに飲まなきゃいけないから飲みな』って言われた」など、社会人のたしなみという親の価値観で、親から将来の飲酒を指導されている子どももあり、全体的に親も子も飲酒に対して寛容であり、将来的には飲酒を肯定する形で、幼少のころからコミュニケーションを円滑にするための手段という親の価値観から、親が子どもに遊び心で飲酒を体験させる慣習がみられる。

大人も子どもも、飲酒の嗜癖性の高さについての認識はなく、飲酒についてきわめて寛容な社会環境にあることがわかる。

（4）飲酒における倫理感

子どもの気持ち

「缶の横にお酒は二十歳からって書いてある」「ビールの宣伝でも書いてある」「二十歳からじゃないといけないんだよ」「なんで二十歳からじゃないといけないのかな・・・」など、お酒は二十歳からのものという認識はしっかりと子どもに根付いている。しかしながら、「飲んでる！飲んでる！高校生から完璧飲んでる」という母親の発言や「(19 歳のクラブ活動の先生)は、大人に飲めっていわれると平気だよ・・・ってどんどん飲んでる。」という状態が子たちの周りで展開しており、法律の上での大人と社会での飲酒可能な大人にずれがあることに大人も子どもも気づいている。

2．喫煙に関する調査の結果

1）家庭内における喫煙の状況（表７、表１０）

子どもの視点から見た喫煙状況

家庭内での喫煙状況としては、「家は吸わない」「家はやめた」「昔お父さんは吸っていた」「お父さんは時々吸っている」「お父さんはいっぱい吸うし」など家庭によってまちまちだが、「お母さんは時々吸う」といった女性の喫煙についての発言は一つだけで、基本的に家庭内での喫煙者は父親がほとんどであった。

ヘビースモーカーの父親達の喫煙状況を示すのに「お父さんの部屋だけ壁やカーテンが黄色くなって」とか「この前ペンキ塗ったけどまた黄色くなった」などのリアルな意見が出ていた。

飲酒と同様、子どもたちは家族の喫煙場面や喫煙状況について具体的に語ることが出来ており、日常生活において、大人たちの喫煙は子どもたちに強く印象付けていることがうかがえた。

親からみた家庭内の喫煙状況

喫煙する家庭は、多くは喫煙場所は換気扇の前や自分の部屋やトイレ、パソコンの前、戸外、など、他の家族や子供の居ないところを選び、リビングなどでの喫煙は避ける傾向にあった。しかし、中には反対に全く気にしない親もあり、子どもとしても生まれたときから家の中は自由に大人がたばこを吸う場所として受け止めている場合もみられた。

2）子どもから見た大人の喫煙に対する印象（表6）

（1）喫煙に対する疑問

子どもの発言

「何でたばこ吸うのかな」「なんでたばこ自体あるのかな？」という、基本的なものから、「たばこって躰にわるいんでしょ？」「躰に悪いって知ってて吸ってるんだよね」「肺ガンとか死にやすいんだよね」「たばこは習慣だよね」「一回吸ったらとまらない？」など健康を害するものを口にすることについての、具体的な疑問もあった。

（2）喫煙に対する好奇心

子どもの気持ち

「たばこ吸ったらどうなるの？」「味するの？」「美味しいの？」など、大人が口にするものへの素朴な興味を示す男子が数名。「躰に良くも悪くもないなら一度吸ってみたいな」「大人になったらたまに吸いたい」など、健康面で不安を抱きつつも喫煙体験を望む声も聞かれた。

（3）喫煙に対する拒否

子どもの気持ち

「煙が臭い」「煙い」など、感覚的な不快感には、「駅のホームで吸われると煙い」「車の中で吸われると酔うから嫌だ」「落ちていて臭い」など大人のマナーや配慮を求める子どもの批判的な目があり、喫煙者の周囲にいる被喫煙者の苦痛が感じられる。

「たばこを吸うと病気になると聞いた」「ぜんそく気味になるのでいやだな」「ガンとかになるのでやめて欲しい」など、健康面での害を指摘する子どもも多い。また、「お金の無駄だからやめて欲しい」という経済面からの批判も数件みられた。

このように、すべての子どもから「やめてほしい」「ぜったいやめて欲しい」など、なんらかの拒否にあたる発言があり、将来的にも「吸いたくない」と口をそろえて否定する場面もあった。

大人が認識している子どもの気持ちや発言（母親から見て）（表１１）

『煙が来るから窓あけて』『煙は嫌だ』『煙い煙い』『車の中で吸わないで』など、たばこをいやがる言葉を子どもが普段から発しており、この際煙を払う仕草をしたりするとの意見があった。

また、健康面としては、『吸った人より周りのひとのほうに害がある』『躰によくないんだよな・・・』などといった発言も子どもからあり、『パパがたばこを吸うから僕にガスがたまった』というような、子どもなりの健康面での不安が語られる場面もあった。

（4）未成年喫煙の目撃談（表８、表１１）

親の認識として

他校の情報として「5 年生ぐらいからたばこを始めるらしい」「小学校のトイレが息抜きの場所でたばこ臭いそうだ」などの意見があがり、一同驚愕のリアクションをしめしたが、実際に、子ども達のインタビューから次のような目撃談が出た。

子どもの目撃談

「3 年生の子が吸っている」「6 年生のときランドセル背負って吸っていた」「Nの兄ちゃん中一だけどめちゃめちゃ吸ってる」など、実際には身近に目撃体験をしており、その場所も、学校の通学路だったり、「近くの公園」など日

常の生活エリアである。この場合の倫理観として、子どもに目撃した後の行動をたずねた。

「言わない」「わかんない」「言う気にならない」との言葉がでて、子どもにとって目撃はしても傍観者的な立場を守り、自ら関与することはないとみられる。

（5）親としての倫理（表１１）

親の発言

大体の親は成人からの喫煙は本人の意思に任せると考えており、喫煙を否定する意見はなかった。一部には、自分の体験から子どもはたばこに手を出すものと考えて「隠れて吸うぐらいなら親の前で吸え・・・」というような家庭もあった。

また親自身、特に女親などは、自分の両親の前では喫煙を隠しており、実家に滞在中も自室で見られないように喫煙するなどの行動があり、これに対し子どもはそのことを知りつつも祖父母にそのことを決して公言しないなどの暗黙の気遣いをしている。このような事例は複数の家庭で見られた。

（6）購入場所及び購入方法について（表６）

子どもの発言

本人のために購入したり、親に頼まれて一人で買いにいくなどの経験はないが、親や知り合いの大人と一緒に付いていって、購入場所を知っている。具体的には、「自動販売機・たばこ屋さん・スーパーのレジの横」とのこと。

D．考察

家庭内における飲酒と喫煙状況についての質問で、子どもが一番に頭に浮かべるのは、父親の姿であった。続いて母親の状況が語られた。また母親側の発言でも、まずは夫の状況が思い浮かぶ場合が多い。家庭内で、酒・たばこについて思い浮かぶのは父親であった。

また、特徴的なこととしては、一般的に子どもは、飲酒と喫煙について別の捉え方をしていることが明らかになった。多くの子どもは「お酒はいいけど、たばこはいやだ！」と語っており、酒は、飲んでいる息が臭いという程度以外に不快を感じる意見は少なく、「お酒はたのしいもんだな」という言葉に代表されるように、子どもの視点から見た保護者の飲酒は、親が上機嫌となり、子どもにとって好ましい状態であることが多い。ただし、年末や外食など、祖父母が同席する場合、普段飲まない母親が酒を口にしたり、家族が必要以上酩酊するなど、普段より酒量が増える傾向については否定的だが、それに対して子どもが親を批判する状況にまでは至っていない。

一方、子ども自身の飲酒については、子どもたちは法律でも二十歳までは禁酒であることを認識していたが、日常の場面において実際には二十歳未満の高校生、大学生の飲酒を様々な場面で目撃している現状がある。具体的には、年上の兄姉、スポーツサークルの指導者などであり、公然と行われている事を知っている。

また、子どもたちの現状としては、「苦かった」「まずかった」「泡がおいしかった」など、すでに家庭において多少なりとも全員口にしている事実が明らかになった。この具体的な状況としては、ペットボトルに水を常備する家庭において、同じ形状のボトルである酒を、水と間違えて飲んでしまったり、ジュースと赤ワインを間違えて飲むなど、誤飲によるものも多く語られた。家庭内の酒の管理が子どもへの配慮を欠いていることがわかった。

また、酒造メーカーのパッケージデザインが清涼飲料水と見まちがえるような、子どもの好奇心を駆り立てている現状もあることがわかった。おとなの飲酒時に同席し、「どんな味？」「おいしい？」などの好奇心が沸き、その結果大人が面白半分に味見させる場合がほとんどであり、これが習慣化している子どもの事例もあった。

この結果から、大人も子どもも、法律に違反していることは認知していても、酒に関してはきわめて寛容であり、「少しぐらいなら」「味見になめる程度なら」など、子どもの飲酒の弊害

を真剣に受け止める傾向がない状況にあった。子どもは幼少のころから酒の味を覚えていく現状が明らかとなった。

一方、家庭外における飲酒は、酩酊状態のイメージがあるのか、「酔っ払っている人は怖い、襲ってきそう」など、暴力的なイメージに対する恐怖感が語られた。子どもたちの環境から見て、このような状況を実際に目撃する機会が多いとは考えにくく、メディアなどに誇張されたサブミナル効果によるものではないかと推測される。

家庭内においては、父親の喫煙状況が主に語られ、続いて母親という飲酒と同じ結果であった。しかし、たばこについては、健康に対する弊害の認識が高く、子どものいる家庭においては、妻の妊娠時がターニングポイントとなり、ここから父親の禁煙が始まったり、喫煙を続ける場合、子どもとの同席を避け、自室での喫煙を心がけるなど、子どもの健康に対する心配りが親の意見からも感じられた。それでも、子どもは親の部屋の壁や、カーテンが黄色く変色するなどの現状を目の当たりにして、親のヘビースモーカーぶりを正確に目撃している。また、酒と異なり、車中などの密室に同席した場合、喫煙者との同席は特に息苦しさを伴う不快なもので、密室以外でも、バス停や駅のホームにおいても、類似の不快感を味わっている。

子どもたちは清掃のボランティア体験等では、ポイ捨てされたたばこの臭いに、閉口しており、たばこそのものを否定する子が大半を占めた。飲酒と異なり、たばこの健康への弊害は、子どもたちの間でもかなり浸透しているようであり、喫煙そのものを疑問視する発言が多かった。この意味では、禁煙教育は健康面から進めていくことが効果的であることが推察された。

子ども自身から喫煙体験が、語られることは全くなかったが、同世代の子どもの喫煙についての目撃談は多く聞かれた。下は3年生から、ランドセルを背負って学校の帰りにたばこを吸う6年生など、学校の周囲での喫煙目撃が多い。喫煙する子に対する目撃者であるこの反応は、完全な傍観者を示しており、このことで直接喫煙する本人をとがめることもなければ、保護者や先生などの大人に報告することもない。この関わりを絶つ態度は、一般的な子どもの対応であり、このような子どもの喫煙状況が大人に吸い上げられる機会が少ないことを示している。

また、喫煙について、母親は祖父母の前では喫煙を隠し、自室で密かに喫煙するなどの状況について子どもは詳細に目撃しているが、このことを祖父母に語ることは決してない。暗黙のうちにお互いの中にタブー視している様子があることを語った母親があった。多くの子どもは、たばこについてはからだに悪いことがわかっていながらも大人は喫煙するという矛盾と、その背後にある罪悪感のようなものを子どもたちは敏感に感じ取っていた。

一方、祖父母の前においても喫煙する親の場合は祖父母もまた喫煙するなど、家庭内における喫煙が当然のように日常化している家庭であった。喫煙について、体にわるくなければ一度吸ってみたいという意見の子どもの家庭では、家庭内に喫煙者がいた。普段から家庭にたばこがある家では、子どものたばこへの抵抗感が少ない場合と、逆に不快体験から反面教師的に拒絶を生む場合の二通りがみられた。

以上のことから、子どもにおける飲酒・喫煙に対する認識に、次のような大きな差異が見られた。大人自身も子どもに対して、子どもにお酒を味見させたり、なめさせたり、遊び半分に体験させる傾向があるのに、たばこに関してはこうした傾向が子ども側にも大人側にも見られない。体に悪いと明らかになっているものを子どもには禁止し、大人は嗜好しているという矛盾がたばこそのものにあり、これは様々な場面で見てみぬふりという形でのグレーゾーンを作り上げている。なぜいけないのか、の説得性が欠如しており、これからの子どもへの禁煙教育の課題となるところであろう。

飲酒に関しては、文化的な背景が大きく影響しているのであろうが、問題としてはこの飲酒の体に対する影響が、たばこほど認識されていない現状がうかがえる。実際には早い時期の飲酒と酒量の増加の相関関係からも健康面での啓発は必須であり、飲酒における今後の課題としては飲酒の嗜癖性について、親への情報提供と子どもには早いうちからの正確な知識の伝達も考慮すべき課題であろう。

最後に、禁酒、禁煙のために、子どもの環境として、自動販売機の廃止や、未成年への酒とたばこの販売の禁止など、社会的に酒たばこを子どもから遠ざける努力は行われているものの、実際には、発泡酒などのパッケージが、清涼飲料水と見間違うデザインであること等や、家庭内では酒やたばこの管理がずさんであり、誤飲や興味本位の飲酒喫煙を誘発するに充分であることを、認識する必要性が示唆された。

今回の調査は、基本的にアンケートによる量的調査を行うための事前のキーワード探しとして、フォーカスグループインタビューという質的調査を行ったものである。

したがって、調査もごく限定された狭い地域でおこなっており、これをもってしてすべてのプレ思春期の実態が明確になったわけではない。あくまでも調査の導入にすぎない。ただ、ここで収集した言葉の中に全体像を包括するような傾向や要旨と思える内容も感じられた。

今後の課題としては、このキーワードから得た資料を基に、対象規模を広げて量的調査を行いプレ思春期の子どもの普遍的な部分に肉薄していきたい。

表1　大人の飲酒について（子どもの発言）

疑問	1.　何でそんなに飲めるのか
	2.　何であんなにまずいものが良く飲めるな
肯定的感情	3.　お酒飲んでたほうがいいな
否定的感情	4.　臭い
	5.　まずそう
	6.　酔っ払ってる人は怖い襲ってきそう
好奇心	7.　泡が美味しそうに見えた
	8.　泡は美味しそうにみえちゃう

表2　家庭内における大人の飲酒状況（子どもの発言）

	1.　お父さんが飲む
	2.　おじいちゃんが来ているときはすごく大量に飲む
	3.　お酒も飲まない
	4.　お父さんもおかあさんもビール飲むけど
	5.　おとうさんは結構のむ
	6.　おとうさんは時々ビールを飲んで
	7.　お母さんはお酒もパーティの時しか飲まないからあんまり買わない
	8.　お姉ちゃんがお酒は時々買ってきて飲んだりする
	9.　うちのお父さんご飯は食べないでお酒ばっかり飲んでいる
	10.　かーちゃんとばーちゃんは食べに行ったとき飲む
	11.　おとうさんはいつも飲んでいる
	12.　夜にはお酒飲んでいる
	13.　ご飯食べないでおかずたべてお酒飲んでいる

表3　子どもの飲酒体験（子どもの発言）

誤飲体験	1.　ウーロン茶だと思って飲んだことがある、酔っ払った
	2.　赤ワインとジュースを間違えて飲んだ
	3.　お茶とビール間違えて飲んだ
	4.　お酒とお茶を間違えてゴクンとかなり飲んだ
	5.　ペットボトルによく水が入れてあって水だとおもってゴクンと飲んだら酒だった。
好奇心	6.　少しだけビールをほんの少しだけど
	7.　あわがおいしそうにみえた
	8.　どんな味だか知りたかった
	9.　桃だったら美味しいかと思って
	10.　おとうさんが、ご飯の時ちょっと頂戴といって、
	11.　飲まないと味がわからない
	12.　おねえちゃん（中2）も、いつももらっている
	13.　飲むとお土産をいっぱい買ってきてくれる
	14.　おかあさんが赤ワインとか美味しいって言っているから飲んでみたい
	15.　飲み会とかあると、パンとかいっぱい買って着てくれる
飲酒体験の感想	16.　飲んだら苦くて
	17.　お酒飲んだことあるけど
	18.　まずかったけど
	19.　まずいんだけ
	20.　良くこんなのが飲めるな・・・と思った
	21.　何回飲んでもまずいんだけど
	22.　正月に甘酒飲んだら全然美味しくなかった
	23.　ビールの泡だけ飲んだらすんごい苦かった
	24.　ビールちょびっと、苦かった

	25. 一口目は美味しかったけど、二度目は苦かった
	26. ちょっと苦かった
	27. 子どもの頃はまずくても美味しくなると思う
	28. ただまずかった
	29. 泡っておいしいんだ
	30. ビールとかはちょっとなめたこともあるし、飲んでみたいとおもうし
	31. ビールの泡を飲んだ時うがいしないといつまでも味がのこっていや
	32. 梅酒とか・・・
	33. お酒はいいけどたばこは嫌
	34. お酒は別に飲んでもいいんだけど、たばこは・・・
	35. ビールは他に人にあまり害がないからいいと思ってるんだけど
大人になったら	36. 大人になっても飲みたくない
	37. 会社とかで飲みに行ったりするとき飲まなきゃ行けないから飲みな・・・と親に言われた
	38. 日本酒とかは臭いからいやだけど（20 過ぎたら飲みたい）
倫理	39. 缶の横にお酒は二十歳からって書いてある
	40. ビールの宣伝でも書いてある
	41. 二十歳からじゃないといけないんだよ
	42. なんで、二十歳からじゃないといけないのかな？
	43. まだ未成年だから
	44. もっと厳しくすればいいのに
	45. （19 歳の）クラブの先生はまだ二十歳じゃないのに、飲めっていわれると、平気だよって飲む
	46. 先生まだ 19 歳なのに

表 4　親の飲酒状況（親の発言）

	1. 家の中に酒もたばこもない
	2. 夕飯時に飲む
	3. 人を集めてお酒を飲む機会が多い
	4. お酒は誰もあんまり飲まない
	5. 主人がお酒を飲む
	6. 毎日晩酌程度
	7. 主人はたばこもお酒も飲む
	8. 私はお酒を飲む
	9. 晩酌はしない
	10. 人が来たときだけお酒を飲む
	11. お酒は毎日
	12. 家で飲むことは無い
	13. お客さん用のお酒はある
	14. 付き合いで飲むこともほとんど無い
	15. 実家に行ったときは飲む
	16. 家では晩酌程度
	17. 子どものいる時間帯にたばこもお酒も飲まない
	18. 人が来て飲む
	19. まったくアルコールが無い
	20. 流しの下においてある
	21. お酒は飲む
	22. ビールは二人で飲む
	23. 手の届くところにある
	24. ビールを飲んでから日本酒を飲む

表5　子どもは飲酒をどう思っているか
（親の発言）

否定的感情	1.　苦かった
	2.　お酒に良いイメージは無い
	3.　もっと太る
	4.　お酒を飲まない人と結婚したい
	5.　飲んで主人が子どもにべたべた
	6.　家族みんなで酔いつぶれたのを見たので、子どもがお酒によいイメージをもっていないと思う
肯定的感情	7.　ビール飲みな！ってすすめる
	8.　お酒はたのしいもんだな
	9.　お酒は早くのみてぇんだよ
	10.　ビールにはきょうみがある
	11.　早く二十歳になって飲みたい
	12.　お酒に興味はある
	13.　自分も飲んでみたい
	14.　やっぱり飲んでみたい
	15.　泡だけなめさせてくれ
	16.　早く飲みたい
	17.　わいわい楽しそうに飲んでいる
	18.　批判的な目では見ていない
	19.　氷入れてきて、水入れてきてっていうと作って持ってきてくれる
	20.　あわをなめたがる
	21.　大人がたくさん飲んで盛り上がる
	22.　お酒に興味がある
	23.　赤いワイン飲んでみたい
倫理	24.　たばこもお酒も大人のものと思っている
	25.　飲んでる、飲んでる、高校生から完璧飲んでる
	26.　中学生は寂しいからたまると酒やたばこをやってるみたい

表6　大人の喫煙に対する印象
（子どもの発言）

否定的感情	26.　煙が臭いから嫌だし
	27.　お父さんが吸っているのを見て一度吸ってみたいと思うけど
	28.　もう吸わないで欲しい
	29.　よくたばこをすうと病気になるって聞いたんで
	30.　すったりすると喘息気味になるので嫌だなって思う
	31.　ママがその煙すっちゃうと私たちがお腹にいる時に害になるのでやめた
	32.　家の中で吸うと嫌だなっておもったりして
	33.　車の中で吸われると私は酔っちゃうから嫌だな
	34.　うん、嫌い
	35.　車の中で座れるのがすごくいや
	36.　すごい苦しくなるし気持ち悪くなる
	37.　やめて欲しい
	38.　たばこって落ちていても臭い
	39.　臭いが臭いっていう感じ
	40.　金の無駄
	41.　癌とかになっちゃうのでやめて欲しい
	42.　臭い
	43.　やめて欲しい
	44.　臭いし
	45.　お金の無駄だからやめて欲しい
	46.　電車の駅とか隣でたばこを吸うのは煙いなと思う
	47.　たばこ無くてもいいよ
	48.　お酒はいいけどたばこは嫌
	49.　お金の無駄もあるけど、臭い
	50.　将来吸いたくない
好奇心	51.　たばこ吸ったらどうなるの
	52.　味するの？
	53.　美味しいの？

	54.	からだに良くも悪くもないなら一回吸ってみたいな。からだに悪いなら吸いたくない。
疑問	1.	たばこってからだに悪いんでしょ？
	2.	肺だっけ？肺がんとか・・・死にやすいんだよね
	4.	何でたばこすうのかな？
	5.	ていうか、なんでたばこ自体あるのかな？
	6.	たばこは習慣だよね
	7.	一回吸ったらとまんない？

表７　家庭内の喫煙状況（子どもの発言）

	1.	たばこは吸わないけれど
	2.	家は吸わない
	3.	家はやめた
	4.	かあちゃんは吸っていない
	6.	お父さんの部屋だけ壁が黄色くなっている
	7.	カーテンとかも（黄色くなっている）
	8.	たばこをお父さんが吸っていて壁が黄色くなって、ペンキで塗ったけどまた黄色くなった
	9.	たばこは昔お父さんが吸っていたみたいなんだけど
	10.	お父さんはたばこを吸ったりする
	11.	お母さんはたばこは吸わない
	12.	お母さんは時々吸うぐらいであんまり吸わなくて
	13.	お父さんはいっぱい吸うし
家庭外での印象	14.	清掃ボランティアをするときたばこが一番多かった
	15.	すげー多かった
	16.	ところどころにすげー落ちていた
	17.	まとまって5.6本落ちていた

表８　未成年喫煙の目撃談（子どもの発言）

	1.	３年生の子が吸っている
	2.	「吸ってるの？」って聞いたら「吸っていない」って答えたけれど、吸っているのを見たことがある
	3.	俺はしていない、でも６年いるMっていう子
	4.	うそ
	5.	マジ？
	6.	良くないと思う
	7.	見てないけど聞いた
	8.	友達とチャリで走っている時見た
	10.	忘れたけど見た
	11.	友達が言ってたけどあいつのおにいちゃんとかその友達と一緒によくわかんないけど、いろんなことをやっている
	12.	近くの公園で
	13.	俺も中学生が吸っているのを見た
	14.	Nの兄ちゃん中一だけどめちゃめちゃ吸っている
	15.	Nの兄ちゃん小六の時ランドセル背負って吸っていた
	16.	ライター持ってたの？
	17.	たばこ持ってるの？
	18.	お兄ちゃんのとか
	19.	学校では吸わないんじゃないのかな？
	20.	見えないところでは吸っているのかも